

教員人生最高の授業

2022.10.5

「今までの教員人生で最高の授業をしてください」K先生に、そう話した。あれは8月30日(火)の朝だった。「K先生、初任者がうちにきて、あなたが授業をするのっていつだっけ?」「11月1日です」「ああ、よかった。まだ時間がある」そして、「今までの教員人生で最高の授業をしてください」となった。「ハードルが上がりました」「当たり前でしょ。まさか、3番目とか4番目の授業を目指しているわけじゃないでしょ」

昨年度のうちに、野田中学校で市内の初任者を集めての授業研究会をやってくれないかという話があった。いつものように、「はい、わかりました」と答えた。一人の教員が授業を行う。加えて会場校の校長講話があるのが魅力だった。

初任者の前で授業を見せるのがK先生である。彼女には、「11月1日をゴールとして来年度はがんばってちょうだい」と言ってあった。今年度、研修主任となった彼女は、そのつもりで日々の授業に取り組んでいるはずである。

何事もゴールが設定されていることはよい。K先生に、教員人生最高の授業を求めているわけだが、こんなことを誰にでも言うわけではない。K先生との関係性があるから言えることである。だが、ふと考えた。教員は授業を担当している以上、毎時間、教員人生最高の授業を求めなくてもよいのだろうか。

ラーメン屋さんに行く。厨房が見える。じっと観察していると、そこには一杯、一杯心を込めて丹念にラーメンをつくる職人さんの姿がある。とても手を抜いているとは思えない。たぶん、少しでも手を抜けば、すぐにお客さんがこなくなる。きっと、毎日、最高の一杯を目指しているのではなかろうか。そして、これでいいと満足したら終わりなのである。そこから、味は落ちていく。

学校の授業がよくないのは、どんな授業をしようが、最高の授業を提供できなくても、健気に生徒が教室にやってくることである。そして、一生懸命授業に参加する。これが、ラーメン屋さんからお客さんの足が遠のくと同様に、教室に生徒が来なくなれば、先生方も、さすがに考えるだろう。そうなれば、教員人生最高の授業を目指すようになるかもしれない。

授業に関しては、そう簡単な話ではないことはわかっている。それでも、1年に1時間でもいいからゴールを設定し、教員人生最高の授業を目指すべきなのではないか。K先生には、そのチャンスがやってくる。何も打ち上げ花火のような特別なことなどしなくてもよい。初任者が真似をしたくなるような授業をしてくれればよい。

会場校の校長としての講話では、最初に言うセリフは決めてある。「今日の授業者は、教員人生最高の授業をします」である。初任者は、どのような反応をするだろうか。楽しみである。